

「高齢者てんかん」



常陸大宮済生会病院
診療部長 楠 浩

『てんかん』と言うと、一般に子どもの病気で、生まれつきの人が多いというイメージが強く、遺伝する病気と思いついでいる人もいます。

しかし、年を重ねていくと発症する『てんかん』もあるのです。高齢者てんかんは、おもに65歳以上、早い方だと50歳を超えた頃より発症します。

成人になってから発症する『てんかん』のなかには、脳卒中、脳腫瘍や頭部の外傷が原因で起こるものもあります。これらを、『症候性てんかん』といいます。

高齢者てんかんは、『症候性てんかん』のこともあります。原因のはっきりしない、誰でもかかり得る加齢に伴う病気であることも多いようです。症状の特徴は、静かな発作です。「激しい痙攣」や「泡を吹いて卒倒する」といったことは見られません。

例えば、

1. 突然、動作が止まり、短時間一点を見つめてボーとする。その後回復過程で、意識がもうろうとする。（自動車運転中にこのような発作がおきてしまったら、大事故につながりかねません。）
2. 過去の旅行やイベントの特定の記憶が抜ける。
3. 無意識に、口をモグモグ・舌をペチャペチャならす。
4. 急に攻撃的になり、怒ったような言動を発する。

等々がみられます。

その時の様子から、認知症と間違われてしまうようなこともあります。自覚症状がないことも多く、ご家族や周囲の方も見過ごしてしまうことも少なくありません。

発作のない時には、頭部の画像検査、脳波等でも異常が見つからないことが多く、診断は容易ではありませんが、的確に診断され適切な服薬で発作はコントロールできる病気です。1.～4.のような症状に思い当たることがありましたら、外来受診（当院であれば脳神経外科）していただき、相談してください。



常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況

■ 救急車以外
■ 救急車

※救急受け入れの人数を月別に表しています。（休日・時間外を含む）

